

災害情報研究会 R3 年度 第 10 回定例会議事録

1.日 時：2022 年 1 月 28 日（金） 15:00～17:55

2.場 所：オンラインミーティング（By Zoom）

3.出席者：（13 名：敬称略・順不同）

（災害情報研究会）

市川（レスキューナウ）、高橋（インフォコム）、上倉（FM 防災 Lab）、野田（アジア航測）、前田（AIG 損保）、梅田、杉山（富士通）、坂口（日本特殊塗料）、西濱、水落（NEC ソリューションイノベータ、議事録）

（コンガラ研究会、人工海底山脈研究所）

鈴木達雄代表、木谷、原

4.議事

(1) 自己紹介

- ・災害情報研究会各氏
- ・コンガラ研究会各氏

(2) 基調講演

- ・コンガラ研究会、人工海底山脈研究所の活動紹介（鈴木代表）
- ・中間まとめ（木谷）

(3) フリーディスカッション

※コンガラ研究会 P V 動画を元に一部補足して記載しています。

- Q.災害時のコンガラを海に投入する場合、コンクリートに含まれる混和剤や表面塗料などの化学物質が自然環境に悪影響を及ぼすのではないかと？（水落）
- A.今までに三価クロムから変化する六価クロム（発がん性物質）については評価済みであるが、混和剤や塗料については今後影響評価が必要である（鈴木、木谷）
- Q.表面塗料については、最近 10~20 年は低毒性の製品が使用されているが、過去に使用された塗料には現時点で毒性が認識されている製品がある。特に旧耐震のビルなどは古い基準の塗料が使われているのではないかと？（坂口）
- A.表面塗料についてはまだ評価していないが、今後影響評価が必要である。（鈴木）
- A.今後影響評価が必要ではあるが、化学物質であれば海水中で拡散・希釈される事によって無害化されるのではないかと？（木谷）
- 希釈されるものもあるが、有機系物質は生物濃縮によって濃縮されていく危険もある。（坂口）
- Q.実証実験は長崎県だったが、日本全国で実施できるのか？寒流域では難しいのではないかと（質問者不明）
- A.深層の高栄養水を表面近くに湧昇させるといった意味では寒流域でも同じであるが、今後実証が必要である。（鈴木）
- Q.水産資源の回復策と災害時の復旧策を同時に議論している所に違和感を感じる。別々に議論した方が良いのではないかと？（高橋）
- A.この 2 つの論点を一緒に議論して行く事に意味がある。（木谷）
- Q.人工海底山脈を建設するコストは？（質問者不明）
- A.水産庁の人工海底山脈実証事業では規模が小さすぎるが、コンガラ（シティコン）の場合は 1/4 程度のコストで建設できる。（木谷）
- Q.漁業産業の経済性と言う視点ではどうか？また、漁獲対象魚種が違うのではないかと（上倉）
- A.特定の魚種の何かではなく、海の生態系そのものを豊かにして行くことが目的である

(鈴木)

- Q.漁業資源と言う視点では養殖技術の進歩によりもっと安く食用魚を養殖できるのではないか？(高橋)
- A.養殖は海を豊かにしているのではなく、人間の食糧にもなる他の食物を餌にして魚を育てているので、生態系の観点では別の問題である。(鈴木)
- Q.多方面でコストを負担する仕組みが必要ではないか？また、E S G投資の道も開けるのではないか？(質問者不明)
- A.今後の検討課題である。(木谷)
- Q.SDGs、ブルーカーボンの取り組みについてはどうか？(野田)
- A.人工海底山脈を設置する場所を決めるために海水の流体解析や適地分析が必要であり、難易度が高い(木谷)
- Q.アジア航測では海底の赤色立体地図を作成するノウハウも持っているので、別途相談させて貰いたい(野田)
- A.Yes(木谷)
- Q.現在コンガラを運搬し、処分している事業者らは反対していないのか？(質問者不明)
- A.今の所建設業界やマリコン業界はビジネスにならない事から問題視していない。ビジネスの芽が見えて来れば動き始めるのではないか？(木谷)
- Q.コンガラが海洋ゴミとして扱われ国際的に問題視されるのではないか？(質問者不明)
- A.海洋ゴミとしてはロンドン条約に縛られるので、その点は折込済みで検討している(木谷)
- Q.コンガラ処理に関して、高度成長期のコンビナート事業のような産業のグランドデザインを描ける政治家や官僚はいないのだろうか？(市川)
- A.そこが今の政治家や官僚の大きな問題である。(木谷)
- A.それをそのまま許している国民意識も問題である。(鈴木)

5.次回開催予定

日 時：2022年2月19日(土) 15:00~17:00
場 所：オンラインミーティング (By Zoom)
議 題：未定

以 上